

## 特別講演 2

### 「心不全を予防するにはどうしたらよいか？」

大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学教授

小室 一成 先生

生活習慣が欧米化し、急速に高齢化社会を迎えている我が国において、心不全患者数は確実に増加しているが、我が国の心不全の原因として最も重要な地位を占めているのは高血圧である。高血圧は、圧負荷という機械的刺激により心肥大を惹起する。心肥大形成は、壁ストレスを減少させるといった代償的な側面があるものの、早期より拡張機能低下の原因となる。拡張機能が低下して発症する心不全を拡張不全というが、高血圧歴のある高齢者、特に女性に多い。最近の疫学研究によると、心不全全体の約4割、高齢者に限ると5割以上が拡張不全であると報告されている。また拡張不全の予後は以前考えられていた程良くはなく、5年生存率が3~4割と収縮不全と大差がない。拡張不全の治療で重要なのは、厳格な血圧の管理であり、欧州のガイドラインでは、RAS阻害薬が推奨されている。心肥大を長期間放置すると、収縮機能も低下して、収縮不全を発症する。つまり拡張不全、収縮不全とも、心肥大が原因となっており、その予防、退縮が重要である。